

「凡事徹底」

「凡事徹底」とは、誰でもできる当たり前のことを、誰にもできないくらい徹底してやるということ。2013年の夏の甲子園で初出場初優勝した前橋育英高校荒井監督も、この言葉を座右の銘として、インコースの打ち方より、まずトイレをきれいにしろ、靴をきれいにそろえろという考えのもと、あいさつ、掃除、身だしなみ、時間厳守といったことを徹底し、練習でもランニング、キャッチボールなど基本的なことを大切にしました。当たり前のこと、簡単なことができない人に、難しいこと大きなことはできません。

また、同じ年の正月、箱根駅伝では日本体育大学が前年度の屈辱の19位から1年で優勝という奇跡的な飛躍を遂げました。1年で何が変わったのか。別府監督は練習メニューではなく、寮での生活習慣など練習以外のことを変えました。テレビやゲームで深夜まで起きているのをやめさせて10時30分に消灯し、菓子類をやめ食事をきちんととり、寮やグラウンドの清掃をきちんとやる。日々の生活に向き合う姿勢を変えることで、練習に取り組む姿勢や集中力が変わり、大きな成果に結びついたのです。誰も見ていないところで落ちているゴミを拾える人は、何事もさぼらないし、ごまかさないし、人まかせにしないようになります。自分への甘さがなくなり、責任と自覚が身に付くのです。学習でも部活動でも大切なことは日々の小さなことの積み重ねです。

本校卒業生の宇宙飛行士野口聡一さんは著書の中で、「大きなことを成し遂げる成功の鍵は、日々の些細な努力の積み重ねしかない」と書いています。また、プロ野球で日米4000本安打を成し遂げたイチロー選手も「とんでもないところへ行くたった一つの道は、小さいことを積み重ねること」と言っています。イチロー選手は、高校時代毎日寝る前に必ず10分の素振りをして、それを1年間365日、3年間続けました。1日たった10分の素振り自体は「誰でもできる当たり前のこと」ですが、それを「365日徹底してやった」ことこそが「凡事徹底」であり、物事を成就するための条件なのです。